

## 岩手県野田村の支援・交流活動報告（2013年1月19日）

2013年1月19日のボランティアセンターの活動は、子どもたちの学習・遊びの支援と、押し花教室（茶話会）です。参加者は、合計31名で、うちわけは、一般7名、学生23名、教員1名でした。大学のセンター試験の日だというのに、弘前は大雪、そして、野田村も驚くほど雪が積もっていました。今回も、一般の方にも学生にも、初参加の方が数名いらして、友達に誘われて来ました、という方もいらっしゃいました。現在でも関心を持って、初めて参加して下さる方が途切れないのは、大事なことだと思います。



恒例の記念撮影。雪も風も冷たかったですが、お日様が顔を出し、気持ちのよいなかで。



野田中の仮設住宅にて。野田村の方も驚くほどの量で、道端にも屋根の上にも雪の山が。

まず、野田中学校の仮設住宅の集会所で、もう恒例となっている押し花教室です。午前中は住民の方の参加がなく、先生の指導のもと、ボランティアの私たちも押し花を作ってみたりしました。意外と押し花のしおりの紐の結び方が難しく、誰もが悪戦苦闘していました。

お昼ご飯をはさんで、少しずつ住民のみなさんが来てくださいました。というのは、チーム北リアスの塩田君らが仮設住宅を一軒一軒回って、声をかけてくれたのです。そうした声かけの大切さを学びました。来られた住民の方に聞くと、開始予定時間に一度来たのに誰もいないので、中止かと思って自宅に戻られたそうです。今回は、弘前からのバスの出発が少し遅れたこともあり、予定の開始時間を過ぎて到着しました。せっかく雪のなか来て下さっていたのに、たいへん申しわけなく思いました。



温かい集会所のなかで、しおりづくりとおしゃべりに力が入る。

結局、この日は13名の方が集まってくださり、学生たちや市民のみなさんといろいろなおしゃべりをしながら、しおりづくりを楽しみました。最後は時間が押してしまって、少し急がせることになってしまい、申しわけない気持ちになりました。極力、私たちの都合で住民のみなさんにご迷惑をおかけすることのないように、次回からはもっと気をつけたいと思います。

一方、こどもたちとの学習・遊びの班も、楽しくやれたようです。竹馬、縄跳び、ボール遊び、フラフープ、コマ回し・・・。帰りのバスに乗るときには、女子大学生たちのはじけるような笑顔がありました。子どもにパワーをもらいましたと言い、心地よい疲れのなかで、とてもよい表情をしていました。彼／彼女らにとっては、子どもたちからいただくものの多い活動になっていることでしょう。

本当は、子どもたちのニーズが多い平日の放課後などに来ることができれば、一番良いのですが、授業もあるなかで、なかなかそれは難しいことになっています。夏休みなどの長期の休みに、少しイベント的にでも、平日の活動があるといいだろうなあと思います。



竹馬に挑戦。子どもたちより、大学生のお兄さんの肩の方に力が入っている模様…。



なつかしの大縄跳びでジャンプ。

今回も、野田村社会福祉協議会の大平さんが、最初から最後まで活動におつきあいくださいました。彼女とは、震災直後のはじめてのセンターのボランティア活動のころから、長いおつきあいになっています。

野田村と出会ってから、さまざまな方と一緒に年月を重ね、そしてこれからも一緒に生きていくのでしょうか。2013年の最初の活動も小さな一歩でしたが、ここからまた一歩、今年もよろしくお願いします。

(山口恵子)